

令和 6年度（ 5年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	健やかにいきいきと暮らせるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	支え合い、自分らしく暮らせる福祉社会の形成		課(室)名	長寿福祉課
	施策	地域包括ケアシステムの構築		電話番号	087-839-2346
	基本事業	介護予防の推進		事業実施主体	市
	事務事業	介護予防推進等事業		事業期間	平成 28年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	健康寿命の延伸を図るため、65歳以上の高齢者を対象に、運動教室やフレイル予防講座など各種介護予防教室を開催する。また、地域での介護予防等の自主的な活動の定着を図るため、介護予防ボランティア「元気を広げる人」を養成する。				
6年度概要	高齢者の介護予防教室・講座、元気を広げる人の養成講座等				
重点取組事業		市長マニフェスト		事務事業の類型	②ソフト事業（法律による実施義務無）

【事業の目的】

対象（何を）	一般介護予防事業対象者
意図（どのような状態にしたいか）	身近な場所で教室・講座などを開催し、高齢者が自主的に介護予防に取り組めるようになる。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
① はつらつくらぶ参加者数	人	544	420	262	0	750
②						

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
成果指標① 「フレイル予防講座」参加者数	人	目標値	900	1,000	1,100	0	1,100
		実績値	515	817	472		
	(達成度) 42.9% 15点						
成果指標② 「元気を広げる人」養成講座修了者数（累計）	人	目標値	905	953	1,000	0	1,000
		実績値	875	907	927		
	(達成度) 92.7% 32点						

【コストの推移】

指標名	単位	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（決算）	令和 6年度（予算）
トータルコスト	円	49,270	43,173	36,722	40,680
（事業費）	円	22,845	16,979	17,904	21,862
（職員人件費）	円	26,425	26,194	18,818	18,818

【評価】

評価ランク（A～D）	B	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
より多くの高齢者に介護予防教室へ参加してもらえるよう、様々な機会をとらえ情報発信するとともに、身近な場所で介護予防教室に参加できる環境を整備する必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
高齢者の居場所等へ出向く際にフレイル予防講座（健康教育）を実施し、介護予防の推進に取り組む。また、介護予防ボランティア「元気を広げる人」の養成・支援を継続して実施する。			

令和 6年度（ 5年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	健やかにいきいきと暮らせるまち	評価担当	局名	健康福祉局
	政策	支え合い、自分らしく暮らせる福祉社会の形成		課(室)名	長寿福祉課
	施策	地域包括ケアシステムの構築		電話番号	087-839-2346
	基本事業	介護予防の推進		事業実施主体	市
	事務事業	65歳からのプラチナ世代元気応援事業		事業期間	令和 3年度～令和 5年度

【事業全体概要】

事業の概要	地域支援事業として実施している一般介護予防事業である「はつらつくらぶ」を修了した後、スポーツクラブ等へ移行し、3か月以上活動を継続した人を対象に、自力での健康維持を支援する「元気支度応援金」を支給する。また、高齢者が自立した生活を送る上で必要な足腰の筋量・筋力を維持し、要介護状態になることを未然に防ぐため、貯筋運動を普及するための教室の開設及び運営を行う法人又は団体に補助を行い、身近な場所で運動教室に参加できる介護予防拠点づくりを行う。				
6年度概要	令和5年度介護予防教室「はつらつくらぶ（後期）」を修了した後、スポーツクラブ等へ移行し、3か月以上活動を継続した人を対象に、自力での健康維持を支援する「元気支度応援金」を支給する。また、高齢者が自立した生活を送る上で必要な足腰の筋量・筋力を維持し、要介護状態になることを未然に防ぐため、貯筋運動を普及するための教室の開設及び運営を行う法人又は団体に補助を行い、身近な場所で運動教室に参加できる介護予防拠点づくりを行う。				
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	事務事業の類型	②ソフト事業（法律による実施義務無）	

【事業の目的】

対象（何を）	65歳以上の高齢者
意図（どのような状態にしたいか）	高齢者が自主的に介護予防に取り組むことができるようになる。また、自宅にいても孤立することなく、介護予防に取り組むことができる。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
① はつらつくらぶ参加者数	人	544	420	262	0	750
② スマートフォン使い方教室の開催回数	回	70	30	0	0	0

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 3	R 4	R 5	R 6	中期目標 R 5
	元気支度応援金の支給を受けた者が介護認定を受けなかった割合	%	目標値	0	100	100	0	100
成果指標①	元気支度応援金を受給した高齢者が、その後自ら運動を継続し、生活習慣の改善に取り組むことにより、目標を達成することができた。		実績値	0	100	100		
	(目標達成度)							
成果指標②	オンラインの介護予防に取り組んだ居場所数	か所	目標値	10	10	20	0	20
	居場所に対してオンライン介護予防教室の周知・啓発を図ることにより、目標を達成することができた。		実績値	4	10	20		
	(目標達成度)							

【コストの推移】

指標名	単位	令和 3年度（決算）	令和 4年度（決算）	令和 5年度（決算）	令和 6年度（予算）
トータルコスト	円	9,288	11,135	9,539	13,357
（事業費）	円	1,738	3,651	2,012	5,830
（職員人件費）	円	7,550	7,484	7,527	7,527

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	改善継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
自ら運動や生活習慣の改善に取り組む高齢者が増加するよう、積極的に元気支度応援金の周知を行う。また、感染症の状況下においても高齢者が自宅等で介護予防に取り組むことができるよう、ICT機器を活用した取組みを支援する。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
「元気支度応援金支給事業」と「オンライン介護予防推進事業」に代わり、令和6年度からは、高齢者が自立した生活を送る上で必要な足腰の筋量・筋力を維持するために効果的な「貯筋運動教室」の開催団体等に補助を行うことで、より多くの高齢者が身近な場所で運動教室に参加できるように事業内容を改める。			